

建築理論におけるシエマ概念と設計教育への応用—ブロック玩具を用いた「アブストラクト・アーキテクチャー」試論—

建築理論 シエマ 設計教育 正会員 ○片桐悠自*

ブロック玩具 アブストラクト・アーキテクチャー

1. 建築におけるシエマ概念と類型概念

1-1 現象論的アプローチとしての「シエマ」

本来ジャン・ピアジェによって定義された「シエマ [Schéma]」概念は、児童の概念認識における心理的な過程として提示された^{註1}が、クリスチャン・ノルベルグ＝シュルツや岸田省吾によって、建築理論として発展させられた。ノルベルグ＝シュルツは『実存・空間・建築』^{註2}のなかで、「いかなる知覚でも、それが意味する意味作用をもつにはより安定したシエマ (イメージ) の体系に照合されなければならない」^{註3}と述べる。彼は S.ギーディオンの「空間概念」を批判的に継承した上で、現実と対峙しながら人間の「実存 [existence]」がいかにして、周辺環境を精神的に表現し、持続して安定した「空間シエマ」を形作るかを考察する。シエマの人間の認知を批判的に内省する過程は、ユークリッド幾何学的に把握される三次元空間のなかで、人間がどのように自らを位置づけながら、制作活動を行うかを考察する鍵となる。

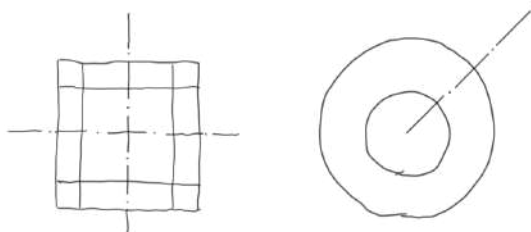


Fig.1 Schéma of Nine Grid(left) and Double Circle(right)

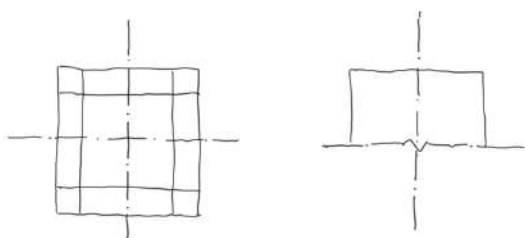


Fig.2 Schéma of Nine Grid(left) and Palace Form(right)

また、人間の空間建築設計における前認識的な、理念と形式の複合として、シエマ概念を発展させた岸田^{註4}は、建築意匠の構想および認識における存在論的プロセスを

考察した。「ナイングリッド(パラディアンシエマ)」と「ダブルサークル」という2つの基本的なシエマを提示する (Fig.1)。F.L.ライトの住宅におけるシエマの発展をナイングリッドによる構成の発展として提示した^{註5}岸田は、「ナイングリッド」の発展形としての「宮殿形式」のシエマが J.N.L.デュランの建築論や大学のキャンパス計画に広く用いられたことを指摘する (Fig.2)。「これらのシエマ概念は、設計のプロセスの理論的前提を重視する建築家の活動を解明する一助となると考えられる。

1-2. 都市の中の建築類型と「絶対建築」

岸田のシエマ理論は、20世紀に重要な影響を及ぼした建築家・建築理論アルド・ロッシからの影響をも受けている。ロッシは『都市の建築』(1966)において住宅における類型概念を論じる際に、「中庭型」「回廊型」といった「類型 [tipo]」概念が都市の認識において重要であったと指摘する。ノベルク＝シュルツ-岸田の「シエマ」概念は、存在論的意味合い (設計論的/図学的) が強いが、ロッシを始めとするイタリアの「類型」概念は、明確な図像を持たないイメージの場合もあり、認識論的意味合い (様式論的/美学的) が強い。

これは戦後イタリアの文脈におけるイデオロギーの様相が類型概念に大きな影響を及ぼしたためであると考えられる。マルクス主義的観点をロッシと共有し、類型論を現代へと発展させた理論家ピエル・ヴィットーリオ・アウレーリは、アウレーリは小論 “After diagram”(2006)^{註6}において、建築家の用いるダイアグラムが、哲学者 L.ウイットゲンシュタインのいうような「言語ゲーム」と同じ問題系、つまり、現実を単純化するレトリックを避けることができないものであると同時に、そのレトリックに内在する政治的危険性を指摘する。この視点は、著作『ある絶対建築の可能性 *The Possibility of An Absolute Architecture*』(2011)^{註7}において、都市の中の資本の論理の流れに迎合する「アイコン建築」を批判し、資本主義都市の中でアーバンゼーションの力に対抗する「ある絶対建築 [an absolute architecture]」概念のあり方を提案する。アウレーリは、ピラネージ、パラディオ、ブーレー、O.M.ウングースといった建築家たちの「企図/設計 [project]」にその可能性を見出すが、ここには「建築における形態的なものと政治的なものは重なり合っている」^{註8}という彼

の視点が導入されている。また、この「絶対建築」概念は、アウレーリの師であり、アルド・ロッシの最初の協働者である建築家ジャンウーゴ・ポレゼッロが提示した「絶対建築 L'architettura ab-soluta」の影響を受けており、両者は「(コンテキストを) 欠いた、または除かれた *priva o privata*」建築の、都市の「内部で対抗する[*contro e dentro, within and against*]」ポリティカルなあり方を模索している注9。

2. 「アブストラクト・アーキテクチャー」試論

2-1. シェマ/類型としての「アブストラクト・アーキテクチャー」

本発表では「アブストラクト・アーキテクチャー *Abstract Architecture*」概念（以下 AA と表記）を試論として提示する。これは設計論的な導出の過程におけるある種のシェマの「断絶」として再現できる(可能性のある)三次元模型として定義される。ある種のヴォリューム模型もそれに相当するが、そこには「模型としての厳密さ・正確さ」を可能な限り排除するような、あるシステム内部で複製・複合が容易なものとして定義される。筆者はすでに、ロッシは、「立方体シェマ」を用いて墓地注10を、「十字型のシェマ」を手がかりに小学校注11を設計したことを論じたが、ヴォリュームメトリックなシェマとして AA を定義することは、「シェマ」概念、「類型」ならびに「絶対建築」概念を複合した概念として、建築設計教育における新たな鍵概念となることが期待される。

2-2. レゴブロックを用いたワークショップ (WS)

AA を導出するために、ブロック玩具(レゴ®ブロック)を用いて基本ブロック(ブロックパーツ、プレートパーツ)を中心としたありあわせのパーツをブリコラージュ的に組み合わせた極小モデルを作成するブレインストーミング WS を行った(Fig.3, 4)。8 x 8 プレートパーツの内部に収まるように抽象化したブロック模型を作成することで(Fig.4)、AA のヴォリュームメトリックシェマとしての伝達可能性を導出することを目的とする。WS の詳細な記録は別稿で記述するが、東京都市大学の大学院生・学部生とともに、2021年12月3日、12月23日、2022年2月25日に現在まで計3回のWSを行っている。

3. 「シェマの解像度」

本発表では、ノルベルグ＝シュルツ-岸田省吾による「シェマ概念」の軸として、ロッシの「類型」概念、ならびに、アウレーリ-ポレゼッロ「絶対建築」を踏まえ、「アブストラクト・アーキテクチャー (*Abstract Architecture*)」という概念を提示した。持続し、安定したイメージとして存在する体系(立体シェマ)ブロック玩具によって導出する WS を行っている。の「解像度」の下がった立体シェマが、記憶の中の図像に近づくという仮説を例証することに近づくことを今後の目標とする。

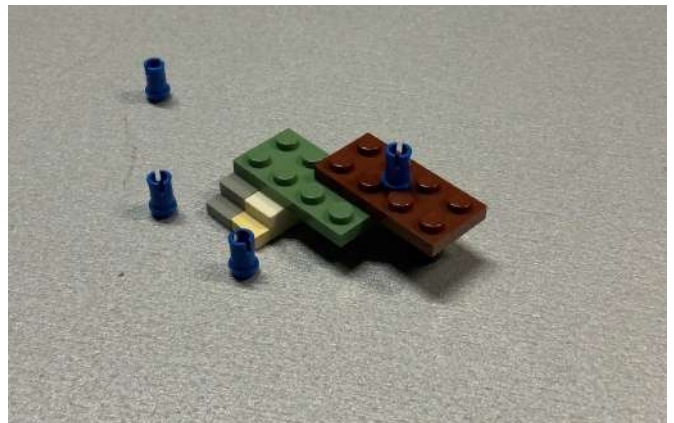


Fig.3 *Abstract Architecture (Volumetric Schéma) of Farnsworth House.*

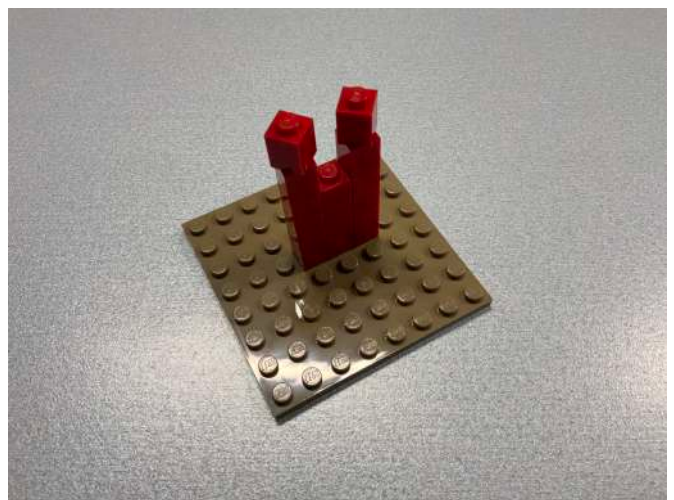


Fig.4 *Abstract Architecture (Volumetric Schéma) of Tokyo Metropolitan Government Building No.1.*

付記：本研究は2021年度東京都市大学若手奨励支援予算（「記憶の家：プロジェクト：ブロック玩具で建築をアーカイブする」代表者：片桐悠自）の助成を受けて執筆された。

図版出典 Fig 1 and 2, re-drawn by the author, inspired from Kishida(2012), Fig 3(modelled by the author) and 4(modelled by N. Takahashi) shot by the author.

注

- 注1) ジャン・ピアジェ『思考の心理学』, 滝沢武久訳, みずさ書房, 1968.
- 注2) クリスチャン・ノルベルグ＝シュルツ『実存・空間・建築』加藤邦男訳, 鹿島出版会, 1971.
- 注3) *Ibid.*, p.27.
- 注4) 岸田省吾『建築意匠論』, 丸善, 2012.
- 注5) 岸田省吾「建築の空間構成研究: フランク・ロイド・ライトにおけるパラディアン・シェマの変貌」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1891-1892, 1979. 9.
- 注6) AURELI, P.V.: *After Diagrams, Log*, No. 6, pp.5-9, 2005.
- 注7) AURELI, P.V., *THE POSSIBILITY OF AN ABSOLUTE ARCHITECTURE*, The MIT Press, 2011.
- 注8) *Ibid.*, x.
- 注9) 片桐悠自「P.V.アウレーリ「ある絶対建築」概念についての一考察: G.ポレゼッロ, A.ロッシ, M.タフーリを参照源とする『ある絶対建築の可能性』(2011)の読解」, 『日本建築学会計画系論文集』, 第87巻, 第798号, 採用決定」, 2022.8.
- 注10) 片桐悠自「アルド・ロッシ「ファニャーノ・オローナの小学校」の設計プロセスと十字のシェマ」, 『図学研究』, Vol.56, No.1, pp. 3-11, 2022.3.
- 注11) 片桐悠自「穿たれた立方体—アルド・ロッシ「モデナ墓地」における立方体シェマの設計論的起源—」, 日本建築学会計画系論文集, Vol.85, No.777, pp.1147-1153, 2021.3.